いわて未来研会報

NPO 法人いわて未来政策・政経研究会会報　第 41 号(R2. 7. 31)

ご挨拶

会長　相原　正明

（総会準備を手伝った及川和治会員と）

新型コロナウイルスが再び勢いを増す中、後戻りできない経済活動との難しい調整を迫られているような昨今ですが、いかがお過ごしですか。

常日頃のご支援、ご協力に改めて感謝申し上げます。

6 月 20 日の総会でご承認いただきましたが、いわて未来研 10 年度目の事業も基本的に計画通りに実施でき、決算の剰余金は過去最大規模を確保しました。会員数もお陰様で発足時の数を 10 年間上回り続けた形となっています。

この 10 年間の、安定した態勢構築の中での地域貢献の成果を更に前進させてまいります。

コロナ禍という烈風もありますが、十分な対策を講じながら、十周年記念事業を始めすべての計画を充実した形で実施するとの決意を新たにしております。

会員の皆様のこれまでにも増した積極的なご参画とご指導ご支援をお願いいたします。

いわて未来研

〒023-1131 岩手県奥州市江刺愛宕字橋本 119 番地
TEL 0197-35-2134　E-mail miraiken@pon.waiwai-net.ne.jp
FAX 0197-35-2134　URL http://iwate-miraiken.sakura.ne.jp

R2通常総会開催

令和 2 年 6 月 20 日(土)、いわて未来研事務所において、通常総会が開催されました。新型コロナウイルス対策として、大多数の正会員の方々から書面表決によって参加頂く中、会長、理事、監事等 6 名の本人出席によって開かれました。

星野義雄副会長が議長となり、5 つの議案の審議を進め、後述(18 頁)のように全議案が可決されました。

このような異例の取り進めとなりましたが、改めまして会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。なお、定款の変更については、早速市長宛届出を済ませたところです(今回は届出のみ)。

当日の総会に関する報道記事を資料添付しておりますのでご覧ください。

会場では、ツバメが時折巣の側に戻り、会議を見守っている風でした。(写真左)。

お知らせ

お願いなど

会の発展のため、加入促進方を宜しくお願いいたします。

R2.7.31 現在会員数

個人正会員(年会費 2 千円)　164 名

個人賛助会員(年会費 1 千円)　63 名

団体正会員(年会費 2 万円)25 法人・事務所

団体賛助会員(年会費 1 万円)2 法人

合計　254 名・法人

ご寄附御礼

前回会報(第 40 号)で報告した以降の状況。金額 0 千円(R2 年度寄附の累計 5 千円)

ご提言・ご意見中間集約

❊　お陰様で会員の皆様から行政機関、政党等への政策・意見提言を寄せていただき、中間集約として添付資料のとおりまとめてみました。

❊　更に募集したいと思いますので、さきの様式により、**9 月末日までに**お寄せ願います。

通常総会(R2.6.20)における書面議決等に感謝 !!

- 定足数要件(正会員総数の 2 分の 1 以上の出席)

  正会員 190 名中、本人出席 6 名、出席とみなされる書面表決者 108 名、計 114 名の出席(正会員総数の 2 分の 1 である 95 名を上回る数)となり、定足数を満たしました。

- 議決要件(出席した正会員の過半数の賛成)

  5 議案全てについて、出席正会員全員が賛成し、可決されました。

編　集　後　記

この度は鞍馬寺の曽根さんから特段のご協力をいただきました。本文インタビューコーナーにも記載したとおり、今日までご縁をいただき、何度も同寺に足を運びました。「京の都の遠郊外にある深山・霊山、鞍馬寺」と称されますが、清新な山の気に包まれていつもリフレッシュさせていただきました。清少納言が随筆『枕草子』で「近うて遠きもの、くらまのつづらをりといふ道」と書いた九十九折りの道(参道)を横目に鞍馬山ケーブルで登っていました。鞍馬寺様からは、東日本大震災の被災地への支援として、震災翌年に多額の義援金を本県沿岸の自治体(山田町)に頂戴しております。皆さまも是非一度お出かけ下さい。(相原)